

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

# つ の ぶ え

TSUNOBUE

2023年1月1日

第443号



社会福祉法人

## 小羊学園

住所 〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町2709-12

電話 053-584-3337

FAX 053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人 稲松 義人

印刷所 アド・アール株式会社



### 今号のMENU

1 P...

理事長巻頭言

2 P-3 P...

特集

ご本人ご家族の  
思いに寄り添う  
ために

4 P-5 P...

法人 SNSもみてね!  
障害のある人にやさ  
しい外出スポット  
浜名湖ガーデンパーク

6 P...

地域交流・社会貢献  
リレートーク  
支える会報告 他



創立期の諸先輩方は制度が乏しい中でも子どもたちと懸命に向き合ってきた

小羊学園のパンフレットに、法人の基本理念とともに、事業の目的(わたしたちの願い)と、事業方針(これから)が掲載されている。具体的な事業計画はこれを念頭において策定したいと思っている。事業方針の3つ目に、実践にあたって市民と行政との協働しつつ進めたいことを謳っている。社会福祉事業は、極めて公共性の高い事業である。一般的には、公共事業という、行政が取り組む事業のことをいう。それに対して、小羊学園のような団体の福祉活動は、民間事業と言われる。戦後長らく民間社会福祉事業は、公的な社会福祉政策の下請けのような位置づけに置かれてきた。今も社会福祉事業の枠組みづくりは行政が担う。しかし、事業の実施主体として、地域の中にある福祉ニードに応えていかなければならない。民間社会福祉事業の先駆者たちは、法律も制度もない時代から、果敢にそれに立ち向かってきた。あとになって整えられた法律や制度によってその使命感が抑えられてしまうのは本末転倒と言わざるを得ない。さまざまな福祉ニードをもつ当事者たちの声に耳を傾け、共に市民社会に訴え、行政によい制度を求めていきたいと願っている。

稲松 義人

特集

ご本人・ご家族の  
思いに寄り添うために

当事者団体のお声を聞かせてください



『我が子を安心して託す  
地域を目指して』

浜松市浜松手をつなぐ育成会

会長 小出 隆司

小羊学園が運営している18事業の主な対象は知的障がい・重症心身障がい児者で、多くの方が自分の思いを言葉で伝えることが難しい方です。だからこそ、代弁者であるご家族の思いに耳を傾け、寄り添い、私たち支援者がすべき福祉ニーズに向き合っていきたいと思っております。今回、小羊学園に關係の深い3団体の会長様にその思いを寄稿していただきました。きつと読んでいただいた皆さんの道標になるはずですよ！

『寄稿者』

- 小出 隆司さん  
浜松市浜松手をつなぐ育成会 会長
- 伊藤 基久さん  
浜松市浜北手をつなぐ育成会 会長
- 三嶋 末子さん  
静岡県重症心身障害児を守る会 会長

【会活動の概要】



私どもの会は、今年度設立六十周年を迎えました。現在、六十周年を記念して現役会員の活動を主に記録した記念誌を作成中です。現役会員の活動は、長くて20年ほどになりませんが平成15年の障害福祉制度が措置から契約となった大変革を経験しております。常に新たな障害福祉サービスを実践した当事者です。記念誌は将来にとって貴重な記録になると期待しています。

さて、全国の多くの育成会が障害福祉事業をおこなっていますが、浜松育成会は知的・発達障害者の当事者として障害福祉サービスの利用者として純粋な運動体として活動を行っております。会員数も千名を超えており全国的にもトップクラスです。近年は成人期の比率が増加しております。会員のお子さんの35%が児童、65%が成人となっております。会員活動は、子どものライフステージごとの部会において課題について座談会や研修が行われております。学齢期においては発達支援級(中学)や特別支援学校卒業後の進路について議論されています。成人期においては、地域生活における重度・高齢化に対する具体的な支援や重度・高齢化に対応した住まいとしてのグループホームについて議論が活発に行われております。

長引くコロナ禍により活動が制限される中、オンラインでの議論が定着しております。

【当事者の思い、親として思うこと】

平成15年からの約20年間、育成会として、障害者の親として常に新たな制度利用を行い、子どもの成長に合わせて日中活動や住まいについて取り組んできました。最近では、80

50問題が課題としてクローズアップされております。高齢になった会員さんから、「もう年で活動ができない」「子どもが入所施設に入ったから」と退会の申し出があります。「親なきあと」の取組が育成会として弱いことに気づかされました。二十一年間で少子高齢化や生活形態の変化は地域でのつながりを弱体化しました。高齢化家族をどう支えるか、育成会の古くて新しい課題として取り組む強化する必要があります。

【これからの福祉事業に

期待すること】

新たな障害福祉制度がつくられ、整備されております。制度を使い評価してきた育成会として、家族として「親なきあと」が迫る中、子どもを地域に託しきれない親が多くいる現実があります。制度と制度の狭間の問題はその中の一つであるかもしれませぬ。福祉事業は制度によって成り立っておりますが、人によって動かされています。これからの福祉事業は、少子高齢化と障がい者の高齢化が進む中、地域の人々がつながりを構築する基幹としての役割を果たし、わが子を安心して託すことのできる地域づくりを進めていくことを期待しています。



## 『共生社会を目指して』

浜松市浜北手をつなぐ育成会

会長 伊藤 基久



## 【会活動の概要】

浜北手をつなぐ育成会は、設立間もないころから50年余にわたり、浜北区内の全世帯が賛助会員として会の運営を支えていただいています。

総会では、多くの自治、町内会長様のご臨席を賜り、その都度、障がい者への理解と育成会の啓発を行うと共に地域福祉の推進、共生社会の構築を図っています。会活動としては、保護者の勉強会や座談会、ご本人の社会体験と交流を兼ねた研修旅行、成人を祝う会、卒業進級を祝う会等の事業を行っています。また、浜北区内の社会福祉法人の方々と共に協働事業として「浜北フォーラム」の開催、浜北特別支援学校の協力の下、個別面談での浜北区内の福祉施設や福祉事業所の「事業所説明会」

等を開催することで、各施設、事業所の方々との連携や地域のサーフティーマットの構築を図る活動も行っています。

## 【当事者の思い、親としての思い】

息子は、進行性の難病で成長していく中で体の自由を一つ一つ奪われていきました。二十歳を過ぎるころには重度心身障害者となり、表情も無くなり意思疎通も出来なくなつたとき、息子は幸せな人生を送れているのだろうかとして様々な葛藤の中、それでも息子とは楽しく生活をしていました。そんな折、育成会の講演会でお招きした講師の方が、「導師は人間の究極の幸せは人に愛されること、人に褒められること、人の役に立つこと、人から必要とされること」の4つとご教示いただき、どんな障害があっても、この教訓を胸に息子に寄り添う事で幸せを感じてくれるとしたら、親にとって容易いことだと迷いもなくなり安堵しました。この想いを多くの保護者、支援者の方々に伝え出来ればと思っています。

## 【これから福祉事業に期待すること】

8〇5〇問題が深刻化していく中で、親あるうちに親亡き後、当事者が住み慣れた自宅で暮らしていきたい。生活支援事業の充実をお願いしたい。

『重症心身障害児者の  
みらいへ』

静岡県重症心身障害児を守る会

会長 三嶋 末子



当会の発足は1963年(昭和38年)です。重度の知的障害と身体障害が重複する子供たちに、重症心身障害児という名がついて福祉が動き出した頃です。全国には1万人ほど静岡県支部には200人余の会員がいます。重症児者の幸せを願って、勉強会や懇談会などを開催し、会の三原則のひとつ「もつとも弱いものを一人ももれなく守る」を大切に活動してまいりました。

平成10年に始めた「県中東部に重症児施設設置をねがう」運動が実り、平成17年に小羊学園の運営で「つばさ静岡」ができた時は本当に嬉しく思いました。入所機能だけでなく、短期入所等の各種在宅福祉サービスはもちろん医療やリハビリ、栄養摂食指導、生活・福祉相談など、県内

重症児者とその家族にとって心の拠りどころになっています。

子供に重い障害があると知った時から医療や福祉、教育等たくさんの方の支援をもらって育ちます。会の発足当時から考えられないほど福祉の制度が整い、家族は遠慮なく周囲に助けを求められるような体制が整ってきました。けれど、一番の気がかりは子供の将来です。「自分たちがいなくなった後も不自由なく暮らしていけるだろうか」と。

成人した後は、ひとりの人として尊重し本人なりの人間関係を構築していく手助けをしなければと思いがら、つい先回りしてしまいます。どんなに障害が重くても受け身ばかりでなく、人との関わりの中で主体的に選んで決め、周囲の人に伝え認められることで、自己実現できる場が増えます。家族以外の人との関わりが充実することで、親は安心して子離れできます。

重症児者の理解者、支援者を一人でも増やし、子供たちの未来のため「もつとも弱いものが守られる社会は、きつと誰もが生きやすい社会となる」と訴えてまいりたいと思いません。

< **6月3日 初投稿** ...

1966年（昭和41年）に重い障がいのある子どもたちのために創立された「小羊学園」。それぞれの時代に求められたニーズに応じて現在18の事業を運営しています。毎週、各施設のイベントや活動を発信していきますので、チェックしてくださいね！



< **9月23日 投稿** ...

三方原スクエアでは、折り染めやビーズ製品の販売を行っています！写真はビーズブレスレット作りの様子です。製品作りに取り組んでいる時の集中力は職人のようです✨お買い求めの際は、お気軽に事務所へお声がけください♪



Instagram



Facebook



今年6月から小羊学園の魅力や福祉情報を発信するSNSを始めました。毎週金曜日に配信しているものからいくつか紹介します。QRコードから覗いてみてくださいね！

**小羊学園公式SNSも見てね😊**

< **7月8日 投稿** ...

猛暑に台風と毎日お天道さまを気にする日が続いてますね。今回は入所施設の「支援センターわかぎ」を紹介しますね。わかぎは自分らしさを表現できるアート製作を大事にしている、利用者が思いのままに作った作品や材料をスタッフがコラボして形にしていく。その工程がお互い楽しい！そんな作品を見てもらえたら嬉しいです。





< **11月18日 投稿** ...

こんにちは！つばさ静岡です☆  
 フェスタつばさは、～「5感で感じる『非日常』みる・きく・かぐ・さわる・あじわう～をテーマに、10月24日(月)～11月11日(金)の3週間にわたって開催しました。



< **10月28日 投稿** ...

Happy Halloween !  
 南区新橋にあるドルチェです。  
 今年もハロウィンに向けた製作に取り組みました。今年はカラフルで可愛いカボチャが出来上がりました♪  
 また旧第2ドルチェの隣の萌樹さんから、毎年お菓子を頂き、地域交流の機会にもなっています。  
 今年度も萌樹さんとの交流予定です♪



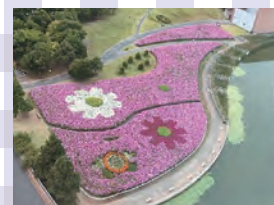
**小羊学園のお勧め!**

**障がいのある人にやさしい外出スポット**

**VOL.7**

**浜名湖ガーデンパーク**

浜名湖村櫛エリアの広大な敷地に四季折々の草花が植えられ、老若男女から愛されている憩いのパーク。もともとは浜名湖花博メイン会場だったことも、最近では知らない人も増えたかもしれませんよね。様々なイベント・体験教室がある他、花・緑/施設・運営ボランティアなど、市民参加型の運営は街づくりのモデルです。小羊学園の各施設も、遠足や行楽でお世話になってます。みなさんもぜひ出掛けてみてはどうですか？ 爽やかな風と草花、そして多様なイベント、気持ちいいですよ～(笑)



**【浜名湖ガーデンパーク 概要】**

[住所] 浜松市西区村櫛町 5475-1 [電話] 053-488-1500  
 [入園料] 無料 \* 駐車場料も無料  
 [開園時間] 8:30-17:00 \* 夏季は18:00まで

KOHTSUJI STAFF



# リレートーク

Vol.23

かわい りえ  
**川合 里枝さん**

2011年入職  
在宅支援センターぱびるす  
保育士



**Q小羊学園を志した動機は？**

大学の頃に発達がゆっくりなお子さんと関わるボランティアに参加して、知りたい！関わりたい！と思ったのがきっかけです。

**Qこの仕事の嬉しいことは？**

子どもたちが楽しんでいる姿や成長する姿をご家族の方と一緒に共有し、見守ることができるのが嬉しいです。

**Qちょっとプライベートを教えてください！**

春夏秋冬の季節に合わせた体験をすることが好きです！職場ではアクティブな方なので、子ども達と遊ぶことも全力で楽しんでいます♪

**Q誰にリレーしましょうか？ また一言メッセージを！**

つばさ静岡わたくもの宍戸さんにバトンタッチします。児童部門会ではお世話になりました。あまりお話する機会がないですが、これからもよろしくをお願いします。

## はままつna netの 災害支援活動

小羊学園は公益活動・災害支援活動の一環として、浜松の企業が手をつなぐ災害支援ネットワーク【はままつna net】に参画しています。

ホームページ

<http://hamamatsu-na-net.com/>

任意で様々な企業が繋がっていますが運営資金はわずかな寄付等のみです。

少しでも運営資金に協力できるよう、マルカート設置の自動販売機の売り上げ金の一部を、はままつna netの運営に寄付させていただくことにしました。

小さな積み重ねですが、これも地域貢献活動の一環です(^^)



### 地域交流の輪が 広がっています

#### マルカート・ドルチェ

この春に浜松市南区新橋町に移転したマルカート・ドルチェ。新たな地で歩み始めた中で、同じ地域の新津中学校、浜松南高校との交流が始まりました。新津中学校はマルカートの活動に使うエコキャップを集めて寄贈にご協力下さり、浜松南高校はサッカー部員がドルチェの放課後時間にボランティアで子どもたちと遊んでもらっています。こうした地域に根差した交流ができることで少しでも共生社会の実現に近づけるといいな！



### 小羊学園を支える会

#### 2022年度 寄付金報告

10月～11月分 1,638,000円 (107件)  
累計 3,820,796円 (190件)  
多くのお支えに感謝申し上げます

#### 小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園  
ゆうちょ銀行 〇八九店 当座預金0107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)  
小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337



空気が澄むこの時期は、星空がいっつも増して眩しく映る。私はこの季節が好きだ。

冬の匂いでも言いますが、少し乾いていて凛とした清々しい空気を感じた時、またこの季節がやってきたと嬉しく感じる。

歳を重ねるにつれ、目まぐるしく季節は移りゆき、年毎に立てた計画がどこまで成せたのかと自問自答する。その際、「成せなかったこと」にフォーカスするよりも「成せたこと」にフォーカスする人で在りたいと、強く思うのだ。

(Y)